

(8) 第8次長期5か年研究推進計画 平成21(2009)年度～平成25(2013)年度

【第8次研究主題・分野別目標・課題】

研究主題・副主題
「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを拓く子供の育成」 ～へき地・複式教育の特性を生かし、 児童生徒一人一人に未来に生きる力を育む学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

分野別目標と課題	
学校学級経営の深化・充実	<p>〈目 標〉 地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と共に「豊かな心」を育てる学校・学級経営の創造</p> <p>〈課 題〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造</li> <li>2 地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造</li> <li>3 地域に根ざした体験活動を通して豊かな心を育む教育活動の推進</li> <li>4 近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進</li> </ol>
学習指導の深化・充実	<p>〈目 標〉 地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる学習指導の創造</p> <p>〈課 題〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 個性を生かした指導計画・実践・評価の改善・充実</li> <li>6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実</li> <li>7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実</li> <li>8 地域に根ざした学習内容の改善・充実</li> </ol>

研究の手だて					
過程	年次	学校・学級経営の深化・充実	学習指導の深化・充実	納 入 大 会	鑑 査 大 会
実践研究検証期	平成21年度	1 7次長計の成果・課題を整理し、8次長計の課題及び研究内容を明確にして、各校の特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。	1 7次長計の成果・課題を整理し、8次長計の課題及び研究内容を明確にして、一人一人の個性を生かした指導計画・実践・評価の改善に努める。		58回 網走大会
	平成22年度	2 年次ごとの研究推進計画を策定する。とりわけ地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。	2 年次ごとの研究推進計画を策定する。とりわけ、指導目標の設定、学習指導過程や教材の工夫、学習活動における支援、評価方法の工夫に努める。		59回 胆振大会
	平成23年度	3 学校や地域の特性を踏まえ、年次ごとに研究理論を構築し、その実践化に努め、記録を累積する。 4 近隣校や各ブロックなどとの共同研究体制の確立に努める。	3 年次ごとに研究理論を構築し、その実践化に努め、記録を累積する。 4 近隣校や各ブロック等との共同研究体制の確立に努める。		60回 上川大会
実践研究整理期	平成24年度	1 実践研究検証期の基盤に立ち、一人一人の個性を生かし、豊かな心を育てる研究の系統的・発展的実践と記録の累計を図る。	1 実践研究検証期の基盤に立ち、一人一人の個性を生かし、確かな学力を育てる学習指導方法の究明に努め、典型化・定型化を図る。		61回 石狩大会
	平成25年度	2 研究内容に即した評価方法の工夫に努める。 3 第8次長計の研究内容をまとめ、成果と課題を明らかし、第9次長計への展望を明確にする。	2 少人数・複式指導研究に即した評価方法を明確にする。 3 第8次長計の研究内容をまとめ、成果と課題を明らかし、第9次長計への展望を明確にする。		62回 日高大会

# 1 第58回網走大会の成果と課題

## ① 網走大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 斜里町立 峰浜小学校	いきいきと表現できる児童をめざして  学習指導8	(1)学んだことが生きることを実感させる単元の工夫 (2)自己・相互評価を工夫し授業に生かす工夫	○低学年においては、抵抗感なく書くようになった。 ○中学年においては様々なバリエーションの形態で書くことに取り組んだ。 ○高学年では、目的を意識して書くことを深めることができた。 ○自己評価、相互評価については、相手の良い点に気づいたり、自分の学習の状況に満足するなど、意欲づけに効果を上げていることが確認された。	○言語に関わって基本的な力を身につけるには、学年を意識した系統的な指導が必要である。 ○生活科ではどの単元において書くことを取り上げていくのかを明らかにすることである。 ○総合的な学習の時間を通して、書くことに視点を当てた取り組みの中で、子どもたちの個人差をどのようになくしていくかの手立てを立てる。
(第2分科会) 清里町立 新栄小学校 清里町立 江南小学校 清里町立 緑町小学校	共に学び合い、生きる力をはぐくむ子どもの育成 ～自他の思いを深め合う集合学習～  学校・学級経営4 学習指導5・6・7 (集合学習)	(1)共に学び合い、生きる力を育む子どもの育成を目指す協力教授体制の在り方 (2)自他の思いを深め合う子どもを育成するための学習指導の在り方	○指導過程の中で、授業者の意図、STの動き、具体的な手立てや支援などが明確に位置づけられ、しっかりとした協力授業体制で取り組むことができた。 ○話し合いの場を工夫したことで、小グループ→大グループ→全体→自分という流れのもと、指導は自他の思いや考えを深めることができた。 ○関わり合う場面を意図的に設定することで、児童は共に学び合い、学ぶ楽しさを味わうことができた。	○教師間で詳細に共通理解できていると児童が伸び伸び活動し、集合学習のよさが発揮できるので今後もより一層連携を密にして取り組む必要がある。 ○児童の考えの取り上げ方を工夫し、関わり合わせる場面をさらに増やしていく必要がある。
(第3分科会) 美幌町立 福豊小学校	自ら学び、生きる力を育む授業の創造 ～学ぶ意欲を引き出す算数科の授業づくりを通して～  学習指導5・7	(1)基礎・基本を明確にした教材研究 (2)子どもが自ら学べる学習指導過程 (3)指導と評価の一体化	○自作教材など児童の興味・関心を高める教材の工夫は、児童の学ぶ意欲を高め自力解決を促すことができた。 ○児童の実態を把握し内容や量を工夫したワークシートの活用は、児童にとって授業の流れを把握するのに有効であった。 ○授業評価等の分析は、指導と評価の一体化に生かされるようになってきた。	○個別指導の充実を目指す同時間接授業の在り方。 ○評価の事後の指導計画への位置づけの工夫 ○話し合い活動を工夫・改善、コミュニケーション能力の向上
(第4分科会) 北見市立 川沿小学校 北見市立 日吉小学校	自ら主体的に学び、自分の思いを表現する子どもの育成 ～お互いの良さを認め合い、高め合う集合学習をめざして～  学年・学級経営3・4 (集合学習)	(1)子どもたちの学習意欲を高める学習過程の工夫 (2)子どもたちをきめ細かく指導する協力教授体制の工夫	○2校の児童の積極的な交流を促す学習過程を工夫したことにより、一人一人がいきいきと学習に取り組み認め合う気持ちや協調性が育ってきた。	○集合学習の道徳の時間で学習した道徳的価値が、その後の生活にどう生かされているかという評価を、2校で交流する必要がある。

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第5分科会) 遠軽町立 瀬戸瀬小学校	自ら意欲的に学ぶ子どもの育成 ～基礎・基本を重視した算数指導の工夫を通して～	(1)個に応じた学習支援の工夫 (2)基礎・基本の定着を図るドリルの位置づけ	○紙にかくことを通して考えをまとめる、深める、広げることができるようになった。かく活動により思考過程の確認、発表や説明への利用、考えたことの蓄積など、個別支援の資料として活用することができた。 ○『とらえる⇒かく(考える)⇒発表⇒話し合い』という学習の流れを明確にすることで、子どもが意欲的に活動できるようになった。 ○継続した取組み、目標を持たせた取組で、意欲的にドリルに取組むことができ、計算力が向上した。	○「具体物」「ヒントカード」を毎日の授業で用意し続けるのは難しい。 ○教え合うことや、早く終わった子が助けてあげる、という学び合う取組の工夫も必要である。 ○同時間接指導の教師の働きをより計画的に明確にしておく必要がある。 ○個々の児童がよい考えを表現できるようになってきたが、それを深める話し合いの方法は依然確立されていなかった。少人数であることを生かした話し合いで、教え合い・学び合うことが必要。
	学習指導5			
(第6分科会) 湧別町立 開盛小学校	個々のよさを発揮し、互いに認め合い、共に生きる児童の育成 ～さまざまな表現活動を通して～	(1)児童一人一人の特性の把握 (2)個に応じた学習方法・表現方法の工夫 (3)効果的な学習場面の設定	○児童個々の特性を把握することで、その子を生かすこと、他の子によさを伝えることができるようになった。 ○英語活動では、自分のことや自分の思いを表現できるようなアクティビティの工夫ができた。 ○表現活動の場において、相手意識を持つとともに内容についても工夫が見られるようになった。また、ALTとも積極的に関わるようになった。	○表現活動の場の系統性と評価(自己評価・相互評価)の方法 ○言語活動の充実と表現活動を意識した授業の構築(題材の工夫)と基礎的技能を習得させる手立て。
	学習指導7			
(第7分科会) 滝上町立 白鳥小学校	自ら学び考え、実践する子どもの育成 ～算数科の授業を通して～	(1)問題文の工夫 (2)自力解決のための手立ての工夫 (3)説明の仕方や話し合いを充実させるための工夫	○複数の教科書を比較・検討し、その中から児童の実態に即した問題を選択したことにより、思考を深めることができた。 ○説明する活動を取り入れたことにより、筋道立てて考える力がついてきた。 ○算数的活動の充実により、児童の解決意欲が高まり、自力解決の方法が定着してきた。	○子どもがつまづいた時の教師の手立ての工夫。 ○「説明」から「練り合い」へ高める手立ての在り方。 ○思考力・表現力の育成
	学習指導5・6・7			
(第8分科会) 雄武町立 幌内小学校	自ら考え、進んで学ぶ子どもの育成 ～一人一人のよさを認め合い思いや考えを深め合う学習活動～	(1)学習活動の見通しを持たせる指導の工夫 (2)学び方の重点を置いた指導 (3)個の学びを充実させる指導の工夫	○学習の見通しを持たせるための様々な手立てに取り組むことができた。 ○間接指導を充実させるための手立てに取り組むことができた。 ○一人学年において、話し合いを充実させるために取り組んだ方法が効果的であった。	○児童が主体的に学習を進めるために取り組んだ手立ての活用方法や、準備の仕方などについて課題があった。 ○児童が自分の考えをしっかりと持てるような発問の工夫や、精選を行う必要があった。 ○深め合う段階における、教師の関わり方について課題があった。
	学習指導6・7			

## ② 網走大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営 の深化・充実

課題1 確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造  
※研究実践なし

課題2 地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造  
※研究実践なし

課題3 地域に根ざした体験活動を通して豊かな心を育む教育活動の推進  
※研究実践なし

課題4 近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進

- 集合学習の研究が両校の実践に生かされ、両校の研究が集合学習の実践に生かされるという相乗効果を生んでいる。
- 「単元分のワークシート」「毎時間の学習のめあて」「発表の目的」などを共通認識したうえで各学校の授業を行うことで、集合学習もスムーズに行え、児童の思いや気付きを深めることができた。また、集合学習までの取組が児童の自信につながった。こうした集合学習における授業づくりで教員の資質向上や指導力の向上につなげることができた。

### 学 習 指 導 の深化・充実

課題5 個性を生かした指導計画・実践・評価の改善・充実

- 生活科では気づきの質を高めること。総合的な学習の時間では中学年において資料の整理の仕方、高学年では資料を分析し再構成する力を身に付けた。
- ドリルや「かく活動」を通し子どもの実態を把握することにより、学習活動の中で個に応じた支援が適切に行えるようになった。また、かいたもの、操作したものを使って自分の考えを、自分なりに説明し、伝えるなど言語活動の充実が図られた。

課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実

- 関わり合う場面を意図的に設定することで、児童の思いが広がる場面が多く見られるようになってきた。また、児童の実態交流、分習、共通理解を行ったうえで各校での密な連携に努めた結果、児童の実態に合った授業づくりができた。
- 単元を通じた学習指導過程や、間接指導場面においての学び方の指導方法を工夫することによって、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。

課題7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実

- 児童の実態に即した問題を設定し、算数的活動を充実させることで、児童一人一人の学ぶ楽しさや成就感を導き出すことができた。
- 個に応じた指導の手立てを工夫することによって、少人数においても、話し合いにおいて学習効果を高めることができた。
- 全校的な取組として計算問題作成等を通し基礎技能の確かな向上を図ることで、児童の基本的な学習習慣の育成に効果が見られた。
- ワークシートや教材・教具の整備等を積極的に活用することで、学ぶ意欲の向上に繋がった。

課題8 地域に根ざした学習内容の改善・充実

- 特色ある教育活動を通して個性を生かし、知床の再発見を促すための地域のよさを追求することができている。

## 今後の課題

### 学校・学級経営 の深化・充実

- へき地・複式教育を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、今後も集合学習を通し交流や共同研究の一層の推進、さらには、教員の資質向上と指導力の向上を図る校内研究の充実が求められる。
- 少人数の中で、ともに高め、認め合える教育活動の展開を強化する。
- 教師間での詳細な児童の実態（3校）の共通理解ができていると、児童が伸び伸び活動して、集合学習のよさが発揮できるので、詳細な打ち合わせは今後とも継続すべきである。

### 学 習 指 導 の深化・充実

- 言語活動や表現力を高める研究を一層深め、児童の練り合いを高める等の言語活動を活発にする指導方法の改善・充実を図る必要がある。
- 教科等における「わたり・ずらし」についての研究の深化
- 今後の「話し合いのパターン」「学年ごとに関わり合う活動で求めるもの」を明確にする取り組みが必要である。
- 児童の思いや願いが組み入れられた授業の工夫が必要である。
- 学習指導過程を工夫し、児童の見取りや個別指導の充実を目指す同時間接指導の改善・充実の必要がある。
- 少人数の複式授業において、個に応じた指導により、個々の児童の学びを充実させることや、児童の練り合いをより活発にするための指導の工夫に取り組む必要がある。
- 学習活動をより充実したものにするために、間接指導場面における学習形態の工夫や、児童が主体的に学習に取り組めるような手立てについて、研究を深める必要がある。
- 目標・指導・評価の一体化に努め、指導案にも明記しているが、評価内容・評価方法などさらに改善・充実する必要がある。
- 意図的・計画的な同時間接指導の在り方（子どもの主体的な学習時間となる同時間接指導）の充実を図る必要がある。

## 2 第59回胆振大会の成果と課題

### ① 胆振大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 豊浦町立 大岸小学校	生き生きと学び、伝え合う力を育てる ～書く活動を通して～  学習指導7	(1)日常的な書く活動 (2)様々な形体の文を書く活動 (3)行事終了ごとの作文、短作文など、文章表現活動 (4)夏休み作品展・冬休み作品展での作品紹介カードや他者作品に対する感想カードの記入 (5)図工作品・家庭科作品等の作品紹介票、読書カード・本紹介カードの記入	○授業の中に「書く活動」を意図的に取り入れることにより、思いや考えを伝え合ったり、深め合ったりすることが充実してきた。 ○全校での行事作文をはじめ、学級でのスピーチ活動や日記などにより、書く意欲が向上した。 ○各学級の実態を踏まえつつ、全校での朝の読書活動や漢字学習の取組を増やし、教師の意識も高まった。	○1人学年では「伝え合う力」の場面設定が難しい。 ○効果的に書き、伝え合う場面で活用するワークシート、子どもの実態に応じたヒントカードやチャレンジシートの工夫が必要。
(第2分科会) 壮瞥町立 久保内小学校	確かな学力を身につけ、進んで学習できる子の育成 ～わかって楽しい算数科の授業をめざして～  学習指導7	(1)学習の仕方の研究 (2)学習のきまり (3)基礎的・基本的な知識や技能の習得 (4)意欲を高める指導 (5)複式授業の指導	○課題解決の方法として、一人学習、ペア、グループ等、様々な形態で話し合い、解決できるようになった。 ○発達段階を考えた「学習のきまり」「ヒントカード」で少人数指導から複式指導へ移行できた。 ○日常生活に関わる活動や自作問題をさせることで意欲と理解を高めることができた。 ○算数タイムの中で高学年が低学年に活動の内容を説明したり指示したりする姿が見られるようになった。	○間接指導時のリーダーの役割を工夫する必要がある。 ○ホワイトボードの書き方、発表を工夫する必要がある。 ○ヒントカードや学習プリントについて研修を深める必要がある。
(第3分科会) 伊達市立 関内小学校	自ら学び、生きる力を育む授業の創造 ～学ぶ意欲を引き出す算数科の授業づくりを通して～  学習指導7	基礎基本の定着を目指し意欲的に学ぶ子どもの育成 ～算数科における主体的な学習をめざして～	○レディネステストにより、実態の把握や授業の中でのつまずきの予測が容易にできるようになった。 ○「問題に印をつけさせる」という指導は、全学年で取り組むことができ、徐々に児童にも定着しつつある。学年が上がり、担任が変わっても統一して取り組むことで子どもも混乱なくできると考える。 ○ヒントカードは、特に複式授業の間接指導時に効果的であったと感じている。子どもの実態に合わせて、準備することが重要である。	○レディネステストの実施やヒントカード作成に要する時間の確保が難しい。 ○見返して活用できるノート指導の工夫が必要である。 ○リーダー・ガイドの役割を明確にし、指導する必要がある。○個別指導の充実を目指す同時間接授業の在り方。
(第4分科会) 室蘭市立 喜門岱小学校	わかる・できる・伝える喜びを感じ、意欲的に学び続ける子の育成 ～確かな力を身につけさせ、自らの学びを深める国語科の指導のあり方～  学習指導6・7	(1)基礎的な力を身に付ける子どもの育成(言語事項に関する知識・理解の明確化と重点化、言語事項に関する指導計画の作成等の工夫) (2)基本的な力を身に付ける子どもの育成(身に付けさせたい「話す力・聞く力、書く力、読む力」の明確化と重点化、言語事項と言語活動との関連の明確化等) (3)意欲的に学びを深める子どもの育成(かかわり合う場の工夫、話し合い活動の位置付けと工夫、自他の学びが見え、実感が伴う自己評価・相互評価の工夫)	○個人⇒ペア・グループ⇒全体という段階を踏み、発達段階に応じたガイド学習を取り入れることで、考えを深めたり広げたりできた。それを全体で交流することで個々の学びがさらに深まった。 ○短時間でできるよう工夫して、効率的で具体的な自己評価・相互評価を行えた。 ○本時の課題が達成できたかを振り返ることで解決していない事や新たな課題に気付き次の課題をもつことができた。 ○相互評価では、誰がどんな手助けや頑張りがあったかを記述させることで、他のよさに目を向けることができた。	○少人数では話し合いの広がりや深まりが不十分。 ○司会役とフォロワーを育てることが大切である。 ○自己評価に加え、教師は観察やワークシート等から見取る必要がある。 ○形成的な評価のために同時間接(小わたり)の場面を設定する必要がある。 ○振り返りカードを有効に活用する必要がある。

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第5分科会) 白老町立 社台小学校	自ら学び、確かな学力を身につける子どもの育成 ～わかる国語科の授業づくりを通して～  学習指導6・7	(1)指導計画と内容の工夫(言語活動の設定、読書活動の推進) (2)指導方法の工夫(問題解決的な指導過程、ノート指導) (3)指導と評価の工夫(指導と評価の一体化、多様な評価活動)	○言語活動についての理解が深まった。リーダー学習に取り組むことで、一人一人が課題を意識し、主体的に学習を進めることができた。 ○ノート指導によって、国語科では見通しをもって取り組む様子が見られた。 ○自己評価カードで、学習の理解度を把握できると共に授業の改善点が明確になった。	○リーダー養成のための具体的な計画が必要である。 ○音読が課題である。全校の取組を工夫する必要がある。 ○板書技術とノート指導を研究する必要がある。
(第6分科会) 苫小牧市立 樽前小学校	自ら学び思いを生き生きと表現する子の育成 ～国語科での学び合いを通して～  学習指導6	1)学ぶ力(学ぶ意欲、学びによる知識や技能、表現力)の定着 (2)少人数による学び合いの工夫	○「説明的文章教材」「文学的文章教材」で、課題解決までの道筋を示し、学習意欲を持続させた。 ○校内授業研究会での様々な意見交流を通して、児童の実態や研究の方向性について共通理解が図られた。	○研究の具体的手立てを吟味し、実践課題を深化させる。 ○少人数による学び合いでは、能力差を考慮し目的や課題を明確にする必要がある。
(第7分科会) 安平町立 富岡小学校	自ら学び、伝え合う児童の育成 ～算数科におけるコミュニケーション活動を生かした授業づくりをめざして～  学習指導6・7	(1)算数科特有の表現力の育成 (2)考え方の伝達や交流の技術 (3)交流するよさへの気づき (4)交流に臨む適切な態度	○指示・発問を精選し、児童のスムーズな理解を促すことができた。 ○ノート指導により、「振り返り」に有効活用できた。 ○個人資料を作成し、よりきめ細かな指導ができた。 ○個に応じた支援・指導を行う時間を確保できた。 ○伝え合う場面を設定し、発表に対する抵抗感を軽減させることができた。	○見取り表や個人資料を評価に効果的に結びつけるための工夫が必要である。 ○算数科での「伝え合う」場面設定について追求していく必要がある。
(第8分科会) 厚真町立 軽舞小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成 ～少人数の特性を生かした授業のあり方～  学習指導6・7	(1)児童一人一人の学習状況についての実態と分析 (2)言語活動の充実 (3)少人数・複式学級における授業の工夫及び改善 (4)個の成長や変化が見える評価活動 (5)子どもの意欲・興味・関心を大切にしたい日常の取り組みの工夫	○個人シート(短期目標と長期目標)により、全教職員が実態把握と年間の指導にあたることができた。 ○意欲を高め、少人数の特性を生かした授業づくりを行うことで、お互いの学年の学びが深まり、自ら学ぼうとする意識が高まった。 ○学年の実態に応じた評価を効果的に行うことで、子どもたちの意欲や関心、変容を把握することができ、それに基づいて個に応じた支援ができるようになった。	○個人シートを吟味し、効果的な言語活動を探ること。 ○間接指導に生きる直接指導のあり方を探ること。 ○「自己を客観的に見る態度」を養い、評価能力を高める評価活動のあり方を探ること。
(第9分科会) むかわ町立 宮戸小学校	自ら考え自ら学び、互いに高め合う子どもの育成 ～基礎・基本をもとに、思いを伝え合う国語科の学習を通して～  学習指導6	(1)確かな読みの力を育てる指導方法の工夫 (2)学び方を身に付け、考えを伝え合う授業づくり	○子どもが自ら学習を進めるために、間接指導・直接指導での教師の働きかけなど、わたりやずらしに関する指導方法の工夫・改善を図ったことにより効果があらわれた。 ○ワークシートのキーワードを明確にすることで、着目点ははっきりさせ、思考しやすくなった。 ○音読カードが有効であった。音読は、家の人のアドバイスにより本人の意識が高まった。	○どの学年にも発達段階にあった「ガイド学習」があつて、自分たちで学習を進めることはできたが、考えを深め、互いに高め合うための指導の工夫が必要である。 ○確かな力が付くよう、少人数指導の充実を図る。

## ② 胆振大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営 の深化・充実

- 課題 1 確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造**
- 各校ともに本大会に向けた実践研究を重ねながら、道へき複 8 次長計 2 分野 8 課題の視 点に合わせて研究の全体構造を明らかにし、三特性（へき地性・小規模性・複式形態）の利点を自校の学校経営に積極的に生かすことができた。※研究実践なし
  - 近隣校との集合学習や交流学習の研究実践を通して、地域に根ざした特色ある教育の計 画立案・充実を追究した。

- 課題 2 地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造**
- 各教科、総合的な学習の時間、外国語活動、道徳教育、クラブ活動、学校行事等で地域人材バンク(ボランティア)や出前授業を積極的に活用し、授業内容を豊かにして児童の学習意欲を高められた。
  - 合同学習や合同行事では地域の自然や文化、歴史、産業、人材を積極的に教育活動に生かし、併せて道徳的实践力も育成できた。

- 課題 3 地域に根ざした体験活動を通して豊かな心を育む教育活動の推進**
- 道徳の時間を中核に据えた「心の教育」を推進し、地域との交流活動の中で児童の道徳的判断力や実践力を高めた。
  - 地域の豊かな学習環境（自然・人・もの）を教材とした体験活動を多く取り入れた教育課程を編成し、感謝や奉仕の気持ち、協働作業の中で「たくましく生きる」ことを実感させることができた。

- 課題 4 近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進**
- 複式指導から学年別指導への転換を図るため、教育課程や指導方法についての研究を実践的に検証し、教師の指導力向上を図ることができた。
  - 統合先の学校や近隣校との連携を意図的・計画的に推進し、三特性からくる課題の克服を図ることができた。

### 学 習 指 導 の深化・充実

- 課題 5 個性を生かした指導計画・実践・評価の改善・充実**
- 少人数ならではのよさが生きる指導方法（例：リーダー学習等）や指導体制の工夫改善（例：個人シートによる児童一人一人の学習状況の実態把握と適切な指導）を図ることができた。
  - 児童による自己評価、相互評価が短時間にできるような工夫（例：項目選択方式と記述方式の併用）と活用（例：毎回チェックして理解度を把握）により、授業改善を図ることができた。

- 課題 6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実**
- 高学年が低学年に説明したり指示したりする活動や、「ガイド学習」で子ども同士による説明や伝え合い、「ヒントカード」の活用を通して、児童の主体性（自学自習の気持ち）を高めることができた。
  - 「伝え合う力」を育成する「言語活動」の場面を多く設定することで、児童の意欲と表現力を高めることができた。

- 課題 7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実**
- ノート指導（書く活動）、学習カード（自作問題）の活用、子どもの日常生活に関連づけた活動により、児童の学習意欲を高めることができた。
  - ホワイトボード、I C T 機器等の活用は、児童の興味関心を高め、間接指導における視覚的な教材教具として有効であった。
  - 児童の実態に即した問題を設定し、算数的活動を充実させることで、児童一人一人の学 ぶ楽しさや成就感を導き出すことができた。
  - 個に応じた指導の手立てを工夫することによって、少人数においても、話し合いにおいて学習効果を高めることができた。
  - 全校的な取組として計算問題作成等を通し基礎技能の確かな向上を図るこ



- とで、児童の基本的な学習習慣の育成に効果が見られた。
- ワークシートや教材・教具の整備等を積極的に活用することで、学ぶ意欲の向上に繋がった。

#### 課題8 地域に根ざした学習内容の改善・充実

- 特色ある教育活動を通して個性を生かし、知床の再発見を促すための地域のよさを追求することができている。

### 課題 学校・学級経営 の深化・充実

- 次年度から新学習指導要領が完全実施される。へき地や少人数という条件下であっても、「言語の力」「道徳心」等を一人一人の児童に確実に育まなくてはならない。そのための教育課程、指導形態、指導方法を各校の実態に合わせて明確にする必要がある。
- 今後は、仮説に関わる具体的な取組を模索・検討し、取組内容をさらに充実・発展させると共に、授業内容の工夫と改善はもちろんのこと、来年度から完全実施となる新課程に向けた年間指導計画の作成と工夫などを進めていくことが重要であると考えている
- 近隣校、へき地複式校との連携を一層強め、教師相互の実践交流や情報交換、教育内容の共有と連携（小小、小中）を行う中で、少人数指導の利点を生かし、弱点を補完する必要がある。
- 学校図書館活用に係る年間指導計画の充実を図り、「読解力」「表現力」「課題解決力」を育成する必要がある。

### 学習指導 の深化・充実

- 間接指導の充実を目指し、計画的な学習リーダーの養成や役割の在り方について工夫・改善する必要がある。
- 書くこと（ノート、ヒントカード、学習プリント等）の指導は、児童の考えを引き出したり、授業の思考の流れを明確にしたりするために有効である。ノートを活用して練り合う段階を目指し、具体的なノートの活用の指導を充実させる必要がある。
- 自己評価、相互評価に加えて、教師の観察やワークシート等から学びの深まりや広がりを見取る必要がある。形成的な評価を行うために間接指導中の同時間接（小わり）の場面を意図的に設定する必要がある。

### 3 第60回上川大会の成果と課題

#### ① 上川大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 名寄市立 智恵文小学校	他との関わりの中で自分らしさを発揮できる子どもの育成～話し合い活動の充実を通して～  学習指導3・6	(1) 自分の考えをしっかりとつための学習過程の充実 (2) 他との関わりの中でよりよい解決に向けて取り組むことのできる手立ての工夫 (3) 全体を支える日常的な指導	○研究に対する意識の向上、積極的な提案姿勢 ○研究と連動して学校教育全体でめざす子ども像を意識し、授業のあり方を見直すことができた。 ○子どもが自分の考えを発表することへの抵抗感がかなり克服されてきた。 ○自分らしさを発揮して意見を伝え合う場面 ○高学年のリーダーシップの育成 ○「話し合い」活動を楽しむ様子	○評価についての工夫改善 ○4プロセスの「行動にうつす」の手立ての充実 ○特別な支援を要する子どもへの配慮 ○語彙力や表現力の向上
(第2分科会) 士別市立 多寄小学校	伝え合う力高める教育活動の工夫～国語科を中心とした豊かな言語活動を通して～  学習指導5・6	(1) 日常生活と関連を図った言語活動 (2) 身につけさせたい力を明確にした単元指導と、興味関心を高める課題設定 (3) 見通しをもって学習できる複式指導の工夫 (4) よさを見取り次の活動(課題)につなげる評価	○日常生活と学校生活の関連を図り、単元を見通した言語活動を展開することで、学習意欲が高まり、確実な言語力の定着が図られてきている。 ○単元を通して身につけさせたい力や一人一人の指導の手立ての明確化、ワークシートの工夫が児童の理解を深め、自信につながった。 ○評価場面・方法の工夫で、児童自身が自分の成長に気づき意欲的に学習に取り組むようになった。	○児童の個々の実態に合ったワークシートの開発・ヒントカード等の効果的な活用工夫が必要である。 ○国語科において養われた言語力の他教科での充実 ○より効果的な評価方法
(第3分科会) 士別市立 多寄中学校	自ら学び、自ら考える生徒の育成～一人ひとりの考えを生かす授業を通して～  学習指導5・6	(1) 動機づける場の工夫 ・意欲動機の高まり、手順・方法設定 (2) 予想したり考えられる場の工夫 ・課題の自力解決 (3) 発表・交流する場の工夫 ・学習成果等の共有化 (4) 考えを整理・活用する場の工夫 (5) 授業内容や自分の取り組み方を振り返られる場の工夫	○導入段階での視覚的・体験的な教材・教具の効果 ○既習学習を生かした発問で解決の手順のイメージ化 ○生徒の学習の動機付け ○考える時間の確保で予想や筋道の幅を広げられた ○発表の視点の明確化で発表への抵抗感が少なくなり、発表方法も向上した。 ○発表用具の工夫(ホワイトボード等) ○問題解決的な学習の取り入れによる、充実感・達成感のある主体的学習 ○生徒の授業評価を授業者の授業改善に生かす。	○見通しの持てる課題提示 ○自力解決の時間制限と集団解決の時間の確保 ○考える場の時間配分の工夫 ○全教育活動での発表力・表現力の育成 ○個々の意見の全体への広げ方、深め方、生かし方 ○問題解決的な学習を単元全体に明確に位置付ける必要性
(第4分科会) 旭川市立 旭川第五小学校 ・桜岡中学校	確かな学力を身につけ、豊かな心で主体的に行動できる児童生徒の育成～小中連携教育の推進を通して～  学校・学級経営2 学習指導4・5	(1) 基礎的・基本的学習内容の定着 ・9年間を見通した指導計画の作成 ・スキルアップタイムの実施 ・家庭学習、読書活動の推進 (2) 授業方法の工夫 ・学習過程、学習形態、授業内容工夫 (3) 小中が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の推進	○9年間の年間指導計画の作成・活用で、小中合同授業の可能性を探り、実施できた。 ○ガイダンス機能を生かした活動を通して、適切な学習内容を自分で選択する力を培うことで、児童生徒の学習内容の変容が見られた。 ○ある程度学習過程の形式をそろえながらも、学年・教科・授業形態に応じた「問題解決的な学習」で新しい授業実践を行う事ができた。 ○「活動ノート」の改善を重ね、学年に応じた目標を持ち、意識した活動と振り返りができた。	○身につけた力を、授業や生活の中で生きて働く力とする方策の追究。 ○学ぶ意欲・取り組み方・主体的な学びとなる授業づくりを目指していく ○地域との関わりを意識した活動で「ふるさとを愛する豊かな心」をいっそう育てて行く。

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第5分科会) 東川町立 東川第一小学校	進んで学び、考えを 深める子どもの育成 ～小規模校における 個に応じた算数科 指導を通して～  学習指導4・5・6	(1)指導計画と内容の工夫 (言語活動の設定、読書 活動の推進) (2)指導方法の工夫(問題 解決的な指導過程、ノー ト指導) (3)指導と評価の工夫(指導 と評価の一体化、多様な 評価活動)	○適切な児童の実態把握が、きめ細かな指導につ ながり学習内容の定着に結びついている。 ○個々の様子の共通理解されるための情報交換 ○問題の工夫、解決方法の見通しの持たせ方、操 作のある算数的活動、ストーリー性ある視覚に 訴える問題提示などの手立てが有効であった。 ○少人数における交流方法の工夫	○基礎的・基本的な事項の習熟は 学習内容が増えていることも あって時間確保困難 ○複式学級での授業に関する課 題(わたり・ずらし・間接指導・ 個の配慮・学習過程の2学年の 組み合わせ方)
(第6分科会) 美瑛町立 美進小学校	発想を豊かに創意工 夫し、主体的に活動 する子どもの育成 ～体育科・運動領域 を通して、自分たち の学習を高め合う授 業の工夫～  学習指導4・6	1)学ぶ力(学ぶ意欲、学び による知識や技能、表現 力)の定着 (2)少人数による学び合い の工夫	○児童実態を分析した年間指導計画の改善で、一 貫した指導方針の上で実践を重ねることができ た。 ○各領域の指導の工夫で、イメージのわく具体物 の提示や個に応じた配慮の明確化で主体的活動 となった。 ○リーダーの児童の指導の充実を図ることでスム ーズな話し合いとなり、創意工夫する姿が見ら れた。 ○自己評価の工夫で日々の実践でスピーディーに 記入できるようになり観点レベルも上がってきた。	○スパイラル型実践を行う時の ねらい、めあて学習をしっかり 意識した内容と指導計画構築 の継続 ○発想豊かに創意工夫する力を 育てるためには、目標を明確に し指導する必要あり ○わかりやすい評価用紙
(第7分科会) 中富良野町立 西中小学校	思いを豊かに表現す る子どもの育成 ～一人一人に視点を あてた 説明文の読 解指導を通して～  学習指導4・5・6	(1)算数科特有の表現力の 育成 (2)考え方の伝達や交流の 技術 (3)交流するよさへの気づ き (4)交流に臨む適切な態度	○発達段階に応じた言葉の習得を手立てを明確に して指導したため、読み取りでも効果があった。 ○学習した言葉や表現方法を意識させて発表会に 取り組むことで、学習内容の定着が確かなもの となった。 ○意欲面を重視した自己評価・相互評価が、児童 の活動への自信・意欲の継続につながった。 ○「かがやきファイル」を生かすことで、個々に 応じた指導を明確に位置付けることができ た。	○45分授業で効率良く表現でき る場の工夫が必要 ○学習リーダーの進め方統一 ○学習計画のどこでどの子の特 に支援するのかを明確に ○より効果的に表現する場を設 定するために他教科の単元と 関連付けて指導する。
(第8分科会) 富良野市立 鳥沼小学校	自分の思いや考えを もち、伝え合うこと のできる子どもの育 成 ～自らの言葉で、豊 かに表現する子をめ ざして～自ら学び、 自ら考える児童の育 成 ～少人数の特性を生 かした授業のあり 方～  学校・学級経営2 学習指導4	(1)児童一人一人の学習状況につ いての実態と分析 (2)言語活動の充実 (3)少人数・複式学級における授 業の工夫及び改善 (4)個の成長や変化が見える評価 活動 (5)子どもの意欲・興味・関心を 大切にした日常の取り組みの 工夫	○発達段階に応じた言葉の習得を手立てを明確に して指導したため、読み取りでも効果があった。 ○学習した言葉や表現方法を意識させて発表会に 取り組むことで、学習内容の定着が確かなもの となった。 ○意欲面を重視した自己評価・相互評価が、児童 の活動への自信・意欲の継続につながった。 ○「かがやきファイル」を生かすことで、個々に 応じた指導を明確に位置付けることができ た。	○教材を貫く課題設定はよい が、指導案においても検証して いく。 ○学習プログラムと学習計画 のリンクと指導事項に合わ せた効果的な手立て。 ○言語活動例の具体化 ○発達段階・題材による評価
(第9分科会) 富良野市立 山部中学校	お互いを認め、高め 合う人間関係の育成 ～学級活動を中心と した取り組みを通し て～  学校・学級経営1・ 2 学習指導6	(1)確かな読みの力を育て る指導方法の工夫 (2)学び方を身に付け、考 えを伝え合う授業づく り	○Q-Uの結果を参考にした学級指導は有効だっ た。 ○ソーシャルスキルトレーニング・構成的グルー プエ ンカウンター、人との関係づくりに主眼を 置いた取 組は、学級・教科経営に役立った。 ○認め合う場を多く設定できた。 ○研修での個・学級の実態を踏まえた情報共有	○認め合う人間関係づくりの ための特別活動の充実 ○研究の継続・深化のために S S Tや構成的G Eを整理 した 実践と学習効果の充実 を図っていく。

## ② 上川大会の成果と課題

全国へき研でもあったため、課題は全国へき地教育研究連盟で示している「第7次長計」の分野・課題に対応してまとめている。( )は、道へき・複連の第8次長計の関連課題番号。

### 成 果 学校・学級経営 の深化・充実

#### 課題1 家庭や地域と共に確かな学びを創る特色ある教育計画の創造と推進を図る(道へき 課題1. 2)

○ソーシャルスキルトレーニングや構造的グループエンカウンターをはじめ、人との関係づくりに主眼を置いて実践した学校では、それを通して学級経営はもとより、教科経営でも成果を挙げることができた。

#### 課題2 ふるさとを生かし、新しい時代を築く、開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る(道へき 課題2. 4)

○小・中学校9年間を見通した系統的・発展的な指導を、関連する校務分掌の推進計画に位置付けることにより、全教育活動を通して実効性のある取組を行うことができた。

○小・中連携で取り組んだところでは、外国語活動と英語科の具体的な目標をそれぞれ設定し、その実現への活動が明確になっていた。また、児童生徒の学習に取り組む時間の十分な確保、配慮を要する子への支援が具体的に行われていた。

○へき地の閉鎖的で構成員の変化の少ない人間関係に、葛藤場面の設定やロールプレイングを取り入れ、色々な角度から人間関係にスキルアップさせるよう配慮されていた。

#### 課題3 地域に根ざし、家庭や地域と共に豊かな心をはぐくむ教育活動の創造と推進を図る(道へき 課題3)

○地域の特産や地域の産業を扱った授業では、地域の人の功績を調べたり、その内容から掲示したポイントに沿って話し合い、まとめる活動となったが、調べたことが根拠となり、話し合い活動も集中して行われた。

### 学 習 指 導 の深化・充実

#### 課題4 児童生徒の分かる喜びや個性を重視した指導計画の改善・充実を図る(道へき 課題5. 8)

○「個の支援」を児童生徒の実態、評価計画、本時の展開に位置付けることにより、児童生徒は基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができた。

○学習活動の動作化やペーパーサート、クイズづくり等、説明文を効果的に読み取るための工夫を指導計画に位置付けたことで、進んで表現しようとする姿が見られるようになった。

#### 課題5 学習意欲や個に応じたきめ細やかな指導を重視した指導方法の改善・充実を図る(道へき 課題6. 8)

○授業の中で基礎・基本を充実させる工夫をしたり、漢字検定をおこなったりすることで日常生活や作文の中で漢字を使う子どもが増えた。また、自分から進んで辞書を引く場面が多く見られるようになった。

○行動や学習の様子を「かがやきファイル」等に記録したことで、基礎・基本の定着に向けて個に応じた指導の充実を図ることができた。

○考える時間や作業を多く取り入れることは、ただ覚える・わかるといった授業を行うよりも、既習事項が活かされたり、広い視野で考える力を育てたりすることができるため効果的であった。

○これまで学習したことが活かされ、考えることを通して課題が解決できたときに生徒は、とてもよい表情をしていた。また、学習に対する必要感が生まれ、学習意欲の向上につながると感じた。

○複式の授業形態についての研修を合わせて行う事で、小規模校の担任が日頃抱えている課題等について交流し、解決法を探る機会を多くもつことができた。

#### 課題6 課題意識をもって自ら学び共に高め合う学習過程の改善・充実(道へき 課題7)

○複式の学習形態による授業で「わたり・ずらしの学習過程」を取り入れ、児童が主体的に課題解決に向かっているように「学習ガイド」を活用するなど、複式指導の工夫が随所に見られた。間接指導につながる直接指導が具体的にされたおり、学習ガイド中心で主体的学習を進める学び方が身についた。

**課題**  
**学校・学級経営**  
の深化・充実

- 「自分の考えを伝える」「相手の考えを受け止める」「みんなでつくりあげる」「行動にうつす」の4つのプロセスについて、指導者がポイントをしっかりと押さえて指導したことにより、授業の流れや一つひとつの学習の意図が明確になった。
- 単元を通して子どもたちに身につけさせたい力を明確にし、どんな言語活動を行うのか教師側が意識することにより、子どもたちの学習活動が明確になり、見通しをもって主体的に学習する姿が見られた。

**学習指導**  
の深化・充実

- 「互いに認め、高め合う人間関係」の育成を継続・深化させるためには、学校行事・地域行事・教科特別活動などをトータルにリンクさせた年間指導計画に明確に位置付けていく必要がある。
- 地域の教育力を一層生かした教育活動を、授業時数の確保・精選と共に工夫して行う事で、学校としての立場を明確にして、研究内容を更に充実させて行くことが大事である。
- 小中連携合同授業を行う場合には、双方が目標を達成するための授業形態が適切かどうか、学年の組み合わせや教科を含め、メリット・デメリットを明確にしながらか検討し、工夫と改善を図らなければならない。
- 指導計画を作成する時には、単元の目標を明確に位置付け、児童生徒の実態・教科の特性によって指導内容を柔軟に指導計画に反映させる必要がある。
- 複式学級における利点を生かした学習指導のいっそうの充実
  - ・個に応じた指導の充実で基礎・基本の確実な定着を図る
  - ・間接指導時の多様な自学自習体験から自ら学び自ら考える力の育成を図る
  - ・複式であるがゆえに上学年・下学年の関わりを通して学年を超えて学び合う態度を育成することに心がけてきた。継続して長いスパンで見取っていききたい。
- 学習形態に視点をおいた学習過程の工夫と、「指導の意図」を明示した指導案
  - ・指導方法の特性を生かす・同時間接指導の在り方・学習の進め方・リーダーの育成・マニュアルの定着・（わたり）（ずらし）の場面による必要性・不要性
  - ・〈何のために〉〈どのように〉児童生徒を指導しているのかを明確にした指導案の作成。
- 少人数のメリットの活かし方～教材教具・視聴覚機器の活用と充実を図る
  - ・操作実験用具・多様な体験のさせ方・OA機器の個別対応のさせ方、活用の仕方
- 確かに学力を見取る評価の工夫
  - ・言語表現・身体パフォーマンスや描写等、次への指導の活かし方
  - ・「指導と評価の一体化」は欠かせない。評価規準にかかわり指導計画への位置付けを精査した上で評価を工夫する必要がある。複式では間接指導時の評価方法の工夫が重要である。
- ノート指導の充実～ 間接指導時の児童生徒実態の把握・評価の手がかり・児童生徒の自主的 学びにつながるツールとして工夫が一層重要である

#### 4 第61回石狩大会の成果と課題

##### ① 石狩大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 当別町立 弁華別小学校	「自ら学びを追求し、 ともに高め合う子ども の育成」  ～一人一人の学びが 生きる複式授業の構 築～  学習指導5・6・7	研究仮説1『見通す』:学習 の見通しをもたせること により、意欲的、創造的 に学習を進める子ども の姿を目指す。 研究仮説2『学び合う』: 一人一人の学びをもと に、個の学びが生きる 交流の場を設定するこ とにより、高め合うこ とができる子どもの姿を 目指す。 研究仮説3『振り返る』: 評価活動の設定や方法 を工夫することによっ て、意欲的に学び続け る子どもの姿を目指す。	仮説1:学習過程や課題 の設定の工夫などによ り「教科、学習」「単 元」「授業」を通した 学びの視点を大切に し、子どもに学びの 見通しをもたせること により、学習に向か わせることができた。 仮説2:「伝える」「 深める」「解決する」 に分け、交流の視 点を明確にした。 仮説3:評価活動を 「自己評価」「相互 評価」「他者評価」と 設定し、評価の視 点を明確にした。	○直接指導時の充実 や評価活動の継続 など様々な手立て による成果だとい う意見が出された。 ○研究が子どもた ちにも根づいてお り、目的意識、相 手意識をもった学 びとなっていて、 楽しく学ぶ姿に つながっている という講評をいた だいた。
(第2分科会) 清里町立 新栄小学校 江別市立 北光小学校	「伝え合う力を高め、 自ら学び合う子ども の育成」 ～「話す力」「聞く力」 を学習の中心とした 国語科の授業の創造 ～  学習指導6	研究仮説1「児童が話 したり聞いたりする活 動に対して意欲的に取 り組めるような学習過 程の工夫を行うこと によって、児童は話す こと・聞くことに対 する自信を深めるこ とができるのではな いか。」 研究仮説2「児童が話 し合いの仕方や自主 的な学習の進め方を 知り、経験を重ねて いくことによって、 学習することに対 して成就感をもつこ とができるのではな いか。」	仮説1:主に物語教材 の指導を通して、本 時の学習課題をスム ーズに把握して解決 の見通しをもたせる ための工夫や、単元 全体を通して具体 的な観点をもって読 み取りを深めたり、 自分なりの考えをも って交流を図るた めの工夫を行った。 その結果、児童の 発表や交流が少し ずつ生まれてきた。 仮説2:本時の学習 課題や単元の学習 過程をより具体的 に、かつ明確にする など、自分の学習に 成就感もてるよう な工夫を行った。 少しずつ学習の仕 方に自信をもち、 考えを交流しなが ら学習する姿が 生まれつつある。	○どの授業も概ね 課題をしっかりと 把握し、見通しを もって学習に取り 組む姿が見られた ことや、学習過程 や単元構成、読み 取りの方法など、 共通認識をもつて 一貫した指導が行 われていること、 振り返りのため の掲示物が充実 していたことなど 評価をいただいた。 ○課題提示の仕 方の工夫や解決 のためのワーク シートの内容の 工夫、教師の発 問の仕方につ いて、課題の交 流が図られた。 ○研究の観点が より具体化され ていること、読 み取りの観点を 明確にし、全学 年を通して積み 上げができてい ること、学習指 導要領の読みこ の指導事項がお さえられている ことなどの講評 をいただいた。
(第3分科会) 千歳市立 支笏湖小学校	「自分の考えを持ち、 生き生きと表現でき る児童の育成」  ～算数科における学 習指導の研究～  学習指導5・7 学年・学級経営3・4 (集合学習)	研究仮説1「児童一人 一人の実態と課題を とらえ、教材や指導 方法の工夫すること によって、基本的・ 基礎的な知識・技 能が身につく、考 える力が伸びてい くであろう。」 研究仮説2「学習の 流れ、発達段階に 応じた一人学習の スタイルを確立し、 『学び方を学ぶ』こ とによって、自ら 学ぼうとする意欲 、態度が高まるで あろう。」 研究仮説3「自分 なりの考えを表現 する活動の時間と 場を保障し、適切 な働きかけを行う ことにより、筋道 を立てて表現する 力が高まっていく であろう。」	仮説1:基礎・基本 の学力を定着させ るための工夫とし て、TTの活用・算 数タイムの活用と いった全校的な 指導体制づくりに 取り組んだ。 仮説2:複式学年 別指導の基本ス タイルの構築に 取り組んだ。4段 階の学習の流れに 沿って、それぞれの 場面での児童の 活動を低・中・高 学年別に整理し、 さらに教師の手 立てを加え、表に まとめ、この「支 笏湖スタイル」を もとに、授業実践 に取り組んだ。 仮説3:「表現方法 が一つだけしか出 ない」「子どもの 説明が不十分」と いうときの教師 の働きかけに支 笏湖スタイルで 掲げた具体的な 視点を設定した。 これにより、授 業場面の教師の 動きや言葉がけ が明らかになり、 児童の思考の流 れや、ねらいを 達成できたか という評価を スムーズに行 うことができる ようになった。	○「かく(書く・描く) 活動」の積み重ね で、子どもたちの 考える力や表現 する力が確実に 身に付いている ことが授業から 実感することが できた等の感想 があった。 ○「間接指導 時には、主体的 な学び・見通し のもとせ方の 工夫・一人一人 に対応する手 立ての工夫が 大切である。」 「児童の主体的 ・創造的な学習 態度の育成に しっかりと向き 合って取り組 んだ質の高い 授業が、子ども たちの確かな 成長につなが っている。」と の講評をいた だいた。

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第4分科会) 千歳市立 千歳東小学校	「自ら考え、共に学び、意欲的に学習に取り組む子どもの育成」～算数科の授業を通して～	研究仮説1「問題解決的な学習を通し、学び方を身につけることによって主体的に学ぶ力を育成することができる。」 研究仮説2「考えを交流したり、練り合わせることで、自分の思いや考えを豊かに表現し、互いに学び合い高め合う子どもを育成することができる。」	仮説1：課題提示の工夫・指導過程の工夫・自力解決を助ける算数的活動の充実が図られた。 仮説2：互いの考えを認め合える学習ルール・環境作り・「整理する・広げる・深める・焦点化を図る」活動を工夫した。 仮説3：実態把握・既習事項を生かすことができる教室環境づくりとノート指導・指導過程における適切な評価方法と位置づけに取り組んだ。3年目の今年度は特に、算数科の「課題提示の工夫」に重点を置き実践を行った。	○問題(課題)が子どもにとって分かりやすく興味を引くものになっていた。 ○一人一人の伝えたいという意欲の高さを感じた。 ○児童の多様な考えを引き出す教具の工夫がなされていた。 ○同時間接時の教師の立ち位置について、「前後ではなく直角にそれぞれの学年を配している意味を考えるべきではないか。」とのご意見をいただいた。 ○助言者からは、今後の課題として、少人数の考え方の深め方・色々な考え方に触れさせる等の提示があった。
	学習指導6	研究仮説3「一人一人に応じた支援方法や、指導に連動した評価を工夫することによって、意欲的に学び続ける子どもを育成することができる。」		
(第5分科会) 石狩市立 厚田小学校	「自分の考えをもち、主体的に学習に取り組む子どもの育成」～国語科における「伝え合う力を高める活動」の工夫を通して～	研究仮説「見通しをもって活動することができる学習過程を明確にし、板書や掲示物、自己評価を工夫することにより、児童は主体的に学習に取り組み、課題を解決することができるだろう。」	仮説1：児童の実態に基づいた学習目標、学習課題の焦点化、単元を貫いた言語活動の具体的な設定などに留意しながら指導計画を作成した。 児童が学習に見通しをもったり、学習の経過を振り返ることができるよう掲示物や自己評価シートの効果的な活用などについて実践検証を行った。	○参加者からは、学習ルールが定着し、子どもたちが主体的に活動している様子が随所で見られたなどの感想、意見が聞かれた。一方で、主体性だけでなく、児童の読み取りの力を伸ばすための話し合いの方法などについても更に実践検証をすべきとの意見も聞かれた。 ○助言者からは、本校の研究を深めていく上で「どんな言語能力を身に付けさせていくべきかをより明確にしていくこと」「少人数を生かした個の支援の充実」「評価意識をもった学習内容の構成」「ねらいに沿った直接指導と間接指導の効果的な位置付け」「児童の意欲を高める効果的な教材教具」などについて、更に授業実践を積み上げていってほしいなどの助言をいただいた。
	学習指導6・7			
(第6分科会) 石狩市立 望来小学校	「主体的に考え、みんな高め合う子の育成」～言語活動を通した教科間の関連をめぐして～	研究仮説1「間接指導時において、交流場面に生かす手立てを工夫することにより、互いに高め合う子が育つであろう。」 研究仮説2「交流場面において、自力解決の成果を生かす手立てを工夫することにより、主体的に考える子どもが育つであろう。」	仮説1：児童の実態に基づいた学習目標、学習課題の焦点化、単元を貫いた言語活動の具体的な設定などに留意しながら指導計画を作成した。 児童が学習に見通しをもったり、学習の経過を振り返ることができるよう掲示物や自己評価シートの効果的な活用などについて実践検証を行った。	○参加者からは、学習ルールが定着し、子どもたちが主体的に活動している様子が随所で見られたなどの感想、意見が聞かれた。一方で、主体性だけでなく、児童の読み取りの力を伸ばすための話し合いの方法などについても更に実践検証をすべきとの意見も聞かれた。 ○助言者からは本校の研究を深めていく上で「どんな言語能力を身に付けさせていくべきかをより明確にしていくこと」「少人数を生かした個の支援の充実」「評価意識をもった学習内容の構成」「ねらいに沿った直接指導と間接指導の効果的な位置付け」「児童の意欲を高める効果的な教材教具」などについて更に授業実践を積み上げていってほしいなどの助言をいただいた。
	学習指導6・7			

## ② 石狩大会の成果と課題

### 成 果 学校・学級経営 の深化・充実

#### 課題1 確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造

- 三特性を踏まえた学校経営計画のもと、P D C Aサイクルを踏まえた学校評価・外部評価を取り入れた教育課程の編成・実施・評価・改善等のシステムを構築した
- 複式・少人数学級の特性を生かし、近隣校との集合学習や交流学習の充実を図るとともに、規模の違う学校との学校間交流等の充実に努めた。
- 体験を重視し、個に応じて問題解決に向け、自分の考えを表現し伝え合う学習の場を設定した。

#### 課題2 地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造

- 地域の自然・文化・産業を教育活動に取り入れ、郷土を愛する心、郷土の発展に尽くす心を育てる指導の充実に努めた。
- 地域や学校の特性を生かし、地域の自然や文化財、伝統行事等の教育資源の教材化や体験的な活動を位置づけた教育課程の工夫・改善に努めた。

#### 課題3 地域に根ざした体験活動を通して豊かな心を育む教育活動の推進

- 児童生徒や家庭、地域社会の実態や願いを踏まえ、道德教育の重点目標や指導方針を明確にした全体計画作成し、家庭や地域社会と連携して、豊かな心を育むための道德教育の充実に努めた。
- ボランティア活動、自然体験活動、郷土の文化・伝統に親しむ活動、福祉施設での交流活動等、多様な体験活動を生かし、発達段階に応じて道徳的価値についての自覚を高める指導の充実に努めた。

#### 課題4 近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進

- 教師力の向上をめざす校内研修体制を確立し、互いに認め合い、磨き合い、高め合うことにより資質・能力を高めるとともに、三特性を踏まえた近隣校、異校種学校との交流を図りながら、複式学級における学習指導の在り方に関する研修の充実に努めた。
- 地域人材の活用等、多様な体験活動を充実し、必要に応じて校内研修への地域の教育力の活用に努めた。

### 学 習 指 導 の深化・充実

#### 課題5 個性を生かした指導計画・実践・評価の改善・充実

- 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための、一人一人に応じたきめ細かな指導計画や指導方法を工夫・改善した。
- 習熟度や興味・関心に応じた補充的な学習、発展的な学習等、個に応じた学習の実践化を図るなど、個人差・学年差を考慮した複式ならではの指導方法の改善・充実を図った。
- 少人数を生かし、個人差、学年差を考慮したきめ細かな指導体制の工夫・改善を図った。
- 目標と指導、評価の一体化を図ると共に、個々の進歩や成長を認め励ますような支援的な内容を含む評価や形成的評価の改善・充実に努めた。

#### 課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実

- 児童生徒が自ら課題を把握し、学習への意欲や喜び、見通しを持って課題を解決していく力を育てる学習指導過程を工夫・改善した。
- 一人一人の考え方、感じ方、表し方などを生かし、自ら学び合い・ねり合いのある学習指導過程の改善・充実を図った。
- 学習課題の提示の仕方を工夫し一人一人の興味関心意欲をかき立て主体的に



解決できる場、自分の考えを表現する場を保証し、自分の考えをもたせ表現する学習活動を設定した。

### 課題7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実

- 小規模・少人数のメリットを生かしたきめ細かな学習活動と、基礎的・基本的な力を身につけさせる指導方法の改善・充実を図った。
- 教材・教具・教育機器等を効果的に活用し自ら主体的に学習を進めることができるような指導方法を工夫・改善した。
- 地域の人材や地域行事・年中行事・産業・文化等の多様な教育資源を生かした体験的な学習を通して、一人一人の児童生徒が自ら学びとる楽しさや成就感を体験し、主体的な学び方を身につける指導方法の改善・充実を図った。
- 児童生徒の実態、学習内容を考慮し、自ら学ぶことができるような個別化・集団化の改善・充実を図るとともに、一人一人の児童生徒の能力や学習状況等、個に応じたきめ細かい指導方法を工夫・実践した。

### 課題8 地域に根ざした学習内容の改善・充実

- 地域の教育環境を生かし、地域のよさに気づかせる学習内容を工夫し、多様な教育資源との積極的な関わりを通して、地域から学び、地域に発信するなどの主体性を育てることができた。
- 地域や家庭の教育力を積極的に活用し、児童生徒に育むべき力や地域のもつ課題等への関わりをもたせ、学びを豊かにするような学習内容を工夫した。
- 小規模校のもつ特性や地域の特性を生かしながら、単式校や教育研究組織との連携による学習内容の相互交流、幼保・小・中・高等学校との異校種間連携による系統的な学習内容の改善・充実に努めた。

## 課題 学校・学級経営 の深化・充実

- 「学校・学級経営」の分野に取り組む学校が少なくなっている現状にあり、一分野と二分野の二つの分野を研究の両輪として研究に取り組んでいくことが重要である。
- へき地・複式・小規模の三特性を優位性と捉え、家庭地域と密接な連携を図った特色ある教育をなおいっそう推進していくことが大切である。
- ふるさとへの愛着を高め、国際感覚豊かな人間育成を視野に地域人材の活用や地域素材の活用を進め体験的な活動等を位置づけた教育課程の改善と充実に努める必要がある。
- 教職員の指導力向上のための研修体制を整え、共通の教育課題を持つ近隣校との共同研究や情報交流、学校種間の連携・接続を強めていくことが必要である。

## 学習指導 の深化・充実

- 個人差・学年差を考慮した複式ならではの指導方法や指導体制の工夫と一人一人の成長を認め励ます評価の改善と充実に努める必要がある。
- 児童生徒が学ぶ意欲と見通しを持ち、自ら課題を解決していく力を育てる学習指導過程の改善と充実にいっそう努める必要がある。
- 小規模・少人数のよさを生かしたきめ細かな学習活動と、基礎的・基本的な力を身につけさせる指導方法の改善と充実に努める必要がある。
- 児童生徒の実態、学習内容を考慮し、自ら学ぶことができるような個別化・集団化を図るとともに、一人一人の能力や学習状況等、個に応じたきめ細かい指導方法の改善と充実に努める必要がある。
- 小規模校の特性や地域の特性を生かし、単式校や教育研究組織との連携による学習内容の相互交流、幼保・小・中・高等学校との異校種間連携等による系統的な学習内容の改善と充実に努める必要がある。

## 5 第62回日高大会の成果と課題

### ① 日高大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) えりも町立 えりも岬小学校	子どもが学ぶ喜びを実感する算数の授業の在り方～考える楽しさを味わう“一人学び”と深め合う喜びを味わう“集団学び”の工夫改善～	<b>主体的な学びをうながす指導計画の工夫</b> ・連続した学びを実感できる指導計画の立案 ・課題意識を高める工夫 <b>互いの解決方法のよさを生かし高め合う話し合い活動の工夫</b> ・話し合いの観点の設定 ・「聞く」「話す」「話し合う」活動系統表の活用 <b>基礎的内容の理解と定着を図る環境整備</b> ・算数用語や線分図などの基礎的内容の定着	○生徒指導を機能させた授業を行うことで、皆で学ぶよさや喜びを実感できるようになってきた。 ○指導計画の作成は、児童の考えを深め、学ぶ喜びや充実感を味わい意欲的に学ぼうとする姿勢を育むことにつながった。 ○算数的活動の位置付けは、操作活動を向上させ、抽象的な事象をより具体化させ表現しようとする意識を育むことにつながった。 ○互いに教え合い学び合える場、それぞれのがんばりを評価し合う場をつくることができた。	○学習規律が身に付いていない部分も多々ある。 ○課題の内容や表現方法など、課題提示に工夫が必要である。 ○単元間の関連や系統性をより具体化した年間指導計画の作成・実行が求められる。 ○学級全体・児童一人一人の実態を的確にとらえる取組が急務である。 【経年調査の実施】 ○家庭との連携や周知を図り、児童が学習に取り組める環境づくりを行う必要がある。
	学習指導の充実・深化 6・7			
(第2分科会) えりも町立 笛舞小学校	「自ら学び、伝え合い、自分の考えを深めていく子ども」を目指して～算数指導の工夫を通して～	<b>知的好奇心を喚起させる課題設定の工夫</b> ・課題設定の工夫 ・解決の見通しの持たせ方 ・課題解決の方法 <b>自分の思いを適切に表現し考えを深める場の工夫</b> ・『書く活動』を通じた場の工夫 ・『書く活動』を生かした交流し合う場の工夫	○既習事項と未習事項の違いに気付かせることで、本時の課題が明確になった。 ○見通しをしっかりと持たせることで、自力解決がスムーズに行えた。 ○ヒントカードや具体物、半具体物等の活用はとて有効だった。 ○ノートに自分の考えを記録し、発表のためにホワイトボードを使うことで自分の考えが整理された。 ○自信をもって発表し、同僚などを考えながら聞くことができた。 ○自分の考えをノートにしっかりと書き、ホワイトボードにまとめることができるようになってきた。	○見通しをどこまで、どのようにもたせたらよいか課題である。 ○練り合いを深めるために、ペアやグループ等の小集団での話し合いを活用する工夫が必要である。 ○知的好奇心を喚起させる課題設定のために、教科書の数字や問題を変えることがいいのかを考える必要がある。 ○ノートのマス目にそってきれいに書いているか、テープ図はまっすぐ書いているかなど、ノート指導をしっかりとする必要ある。 ○授業内容と宿題を連動させて考える必要がある。
	学習指導の充実・深化 7			
(第3分科会) 浦河町立 野深小学校	自ら学び共に高め合う子どもの育成～「読む力」「伝え合う力」を高め、考えを広げられる授業を通して～	<b>課題解決の見通しをもたせる工夫</b> ・明確な課題設定 ・個に応じた手立て <b>考えを交流する・相手を意識する工夫</b> ・相手を意識した「聴く」「伝える」力と態度の育成 ・発達段階に応じた学習リーダーの育成	○何をすべきかわかりやすく示していて、子どもによく伝わっていた。 ○観点を明確に示したことにより、見通しをもって学習を進めていた。 ○学習リーダーの役割がはっきりしていて、全員がその進行を理解していた。 ○児童一人ひとりが自分の考えをもち、友達と考えと比較しながら聞くことができていた。	○課題を解決するための手段や方法を的確に示す必要がある。 ○学習の流れや時間の見通しと、「解決のための見通し」を整理するとよい。 ○考えを広げるために、交流の視点を明確にする必要がある。検討するののか、解決までさせるののか、どこまでを求めるののかを明確に示すべきだった。 ○考えを深めるためには、課題と児童をつなぐ支援が必要。そのような発問を用意することで、意図的に深めていくとよい。
	学習指導の充実・深化 7			
(第4分科会) 新ひだか町立 東静内小学校	学び合う子の育成～算数科の授業における教材・教具の工夫を通して～	<b>学び合いの授業づくり</b> ・学習形態の工夫 ・発問・指示の工夫 ・教材・教具の工夫 <b>学習の基盤づくり</b> ・支持的な学級の雰囲気づくり ・学習規律の徹底 ・子どもへの言葉かけ ・学習訓練(聞き方・話し方) <b>複式授業の活用</b> ・学習過程の整理、学び合いの位置づけ	○「一人学び」「グループ」「全体」という学習形態が有効に機能した場面が多かった。 ○予想されるつまづきに対する補助発問を準備する事で子どもの思考を促す支援ができた。 ○授業態度や発言のけじめなどの面で向上が見られた。 ○「基本的な複式授業の進め方」をもとに、単式学級でも学習リーダーを活用することができた。 ○学習過程を示す表示、ヒントカードなどにより複式間接指導時の自学を促すことができた。	○学習リーダーと「学習形態」を組み合わせた、さらに効果的な活用の仕方を模索する。 ○学習形態と、発問・指示、教材教具との効果的な組み合わせを吟味する。 ○教師と子どもの信頼関係をもとに、学習規律の日常的な徹底と維持に努める。 ○ヒントカード、学習過程を示すプレートなど、複式間接指導時の子どもの思考を助ける教具の工夫が必要である。
	学習指導の充実・深化 7			

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第5分科会) 平取町立 紫雲古津小学校	「自ら考えをくみため、 わかりやすくつたえる子の 育成」 ～算数科の思考場面・交 流場面を通して～	<b>学習課題に対する具体的な イメージと解決までの見通し</b> ・問題の表し方 ・的確な課題把握の方法 ・全学級共通の指導過程 ・課題解決に使えるような用 具・手立ての準備 ・既習事項を確認する方法 ※「かんがえることば」の 指導過程への位置づけ <b>課題に関わる表現の仕方・ 筋道を立てた説明の仕方</b> ・ノートや説明用紙、発表 方法の工夫 ・わかりやすい話し方 ※「つたえることば」の活用	○子ども達が見通しをもって学習に 臨めるようになった。 ○「自分で何とかできる」という姿勢 (自力解決への意欲)が子ども達 の中に見られるようになった。 ○「かんがえることば」を意識した指 導計画により、教師の指導のボイ ントが明確になった。 ○「つたえることば」という話型提示 により、定型の話し方が身につい てきた。 ○自力解決後の交流場面に、伝えやす い方法を発達段階に合わせて整理 できた。 ○「つたえることば」を活用しながら、 子ども達は積極的に自分の考えを 発表できるようになった。	○掲示物により既習事項を活用でき るようにしたが、掲示物がなくて も既習事項を活用する力をつけて いかななくてはならない。 ○子ども達がいろいろな方法で試行 錯誤できる時間をしっかり確保す ることが大切である。 ○発表する側の意図を考えながら聞 くことができるような具体的な指 導が必要である。 ○一人一人が考えを伝えることがで きるようになってきたので、お互 いの考えから学び合える学習活動 (話し合い)につなげていかなけれ ばならない。
	学習指導の充実・深化6			
(第6分科会) 平取町立 二風谷小学校	自ら考え、見かたを広げ、 学びあう子どもの育成 ～説明文の読み方指導 を通して～	<b>言語力をつけるための指導 方法の工夫</b> ・動作化・補助教材 ・学習の足跡づくり <b>自分の考えをもち、学び合 うための工夫</b> ・考える場の設定と方 ・学習を振り返る場の設定 <b>伝える力のための論理的な 文章の活用の場の設定</b> ・言語活動の場の設定	○紙黒板の活用や動作化の導入によ り、文章の展開の仕方を意識づけ たり、叙述のイメージ化を図った りすることができた。 ○友だちの意見に対して、付け足し たりしながら考えを深めることが できるようになってきた。 ○自己評価を行ったことで、自分の学 習を肯定的に振り返り、友だちの がんばりにも気付けるようになった。 ○他教科においても、言語活動の「発 表」の場の設定をし、伝える力が ついてきた。 ○聞き手としての意識も徐々につき、 感想をもてるようになってきた。	○ワークシートや板書の視写だけで はなく、思考の流れが表れるノート 指導も指導していく必要がある。 ○国語科学習での言語活動では、児童 への目的意識を明確にし、見通しを もたせた指導を図っていく必要が ある。 ○意見の交流やグループでの話し合 いでは、問題意識をもたせ、より 適切な助言や手立てを行い自主的 な学習となるようにしていく必要 がある。 ○学び合いを充実させるために必要 な「指導する語句」を明確にする。
	学習指導の充実・深化7			
(第7分科会) 日高町立 里平小学校	課題をとらえ、主体的に 学習に取り組む子どもを 目指して ～極少人数学級におけ る効果的な算数科の学習 指導のあり方～	<b>授業全体の中での指導</b> ・学習過程のあり方の工夫 ・見通しの持たせ方 ・教材・教具の工夫 ・発表方法の工夫 <b>間接指導時の中での指導</b> ・つまつたときの解決の手 立て ・発展・補充問題の工夫 ・「ひろげる」場面での指導 の工夫 ・教材・教具の工夫	○4段階の過程を教室内に掲示した り、児童の机にはったりすることで 学びの過程が可視化できた。 ○解き方や考えを予想することで自 信を持って課題に向かうようにな った。 ○算数科で使われる用語について は、発表の場面でも使用できるよ うになってきた。 ○間接指導時の場面でも「小わり」 を行うことにより、児童の学習意欲 の継続化ができるようになってき た。 ○i P a dの活用は、学習意欲の継続 に役立つとともに、学習プリン ト・ワークなどの工夫がなされ、 学習の定着度と計算が速くなって きた。	○「評価の観点」と関係性を持った指 導過程と教師の関わり・活動の整理 が必要である。 ○「学習課題」「学習問題」の提示の しかたを整理するとともに、「結果 の見通し」について引き続き研究し ていく。 ○学年の段階に即したノートづくり を意識しながら、「つばカード」と 連動させた効果的な使用も検討し ていく。 ○学年の段階に沿った発表や説明の 仕方などの「めやす」を設定し、 定着を図っていく。 ○ヒントカードの有効性と活用の仕 方の検討については、i P a dの活 用と関連づけて探っていく。
	学習指導の充実・深化6・7			

## ② 日高大会の成果と課題

成 果  
学校・学級経営  
の深化・充実

### 課題1《確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造》

- ・総合的な学習の時間や生活科、社会科等で地域の素材や人材の活用を意図した教育課程を編成し実施することにより、児童にとって学習の対象がより身近となり、充実した学習活動を展開することができた。
- ・潮干狩りとコンブ干し場清掃や乗馬体験を教育課程に組み込むことによって、コンブ漁や栽培漁業、軽種馬産業等、地域の主要産業について理解を深めることができた。
- ・田植え～稲穂観察～稲刈り～餅つき体験を計画・実施することで、地域の産業である稲作の一部分を体験することができた。

### 課題2《地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造》

- ・地域の伝統芸能の継承することは、地域の歴史を学ぶことにつながり、郷土に対する愛着を深めることができた。
- ・馬の飼育活動では、地域の馬産業理解や道徳的実践力向上につながる教育課程を編成、実施できた。

### 課題3《地域に根ざした体験活動を通して豊かな心を育む教育活動の推進》

- ・地域老人クラブとの交流として、学校花壇の花苗移植作業を老人の方と一緒にやり、思いやりの心を養うことができた。また、昔の遊び体験や生活についての学習を通して、地域社会を理解し、感謝の気持ちを培うことができた。
- ・地域の協力を得ながら畑を作り作物を育てることで、作物が成長する喜びや収穫する喜びを分かち合う気持ちを育てることができた。
- ・地域の外部講師や社会教育の出前講座による体験活動等を積極的に教育課程に取り入れることにより、教育に広がりをもたせ、地域理解を深めるとともに、郷土を愛する心の育成と道徳的実践力の向上につなげることができた。

### 課題4《近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進》

- ・複式学級を有する学校が減少する中、分科会会場校を近隣の研究協力校が、研究及び運営面で支える体制を確立することができた。
- ・分科会会場校と同一の研究教科をもつ協力校が、互いの研究授業を参観・協議し合うことで共同研究が推進され、会場校のみならず協力校の研究も深めることができた。
- ・地域ボランティアの方や保護者の方に公開授業等を参観していただき、アンケートによる励ましやお褒めの言葉をいただき、児童の学習意欲を高めることができた。

学 習 指 導  
の深化・充実

### 課題5《個性を生かした指導計画・実践・評価の改善・充実》

- ・それぞれのよさやがんばりを評価し合い高め合う活動を通じて、次時活動に対する意欲を高める児童が多く見られるようになった。
- ・学習の見通しをもたせ自己評価を行ったことにより、意欲的に取り組み、自分の学習を肯定的に振り返ることができるようになった。
- ・単元の評価規準をもとに絞込んだ形成的評価を毎時間行うことで、児童の学習の到達状況やつまづきを把握し、その後の学習活動を見直し、児童が目標を達成できるようはたらきかけを行うことができた。

### 課題6《主体性を育てる学習指導過程の改善・充実》

- ・1単位時間ごとの関連性を重視し、連続した学びが実感できる指導計画を立案することにより、主体的に活動し、学ぶ楽しさや解決できる喜びを味わえる授業を構築することができた。
- ・問題提示・課題設定から、主発問の流れを定着させることで、学習を主体的・効率的に進めることができた。また、主発問・補助発問・指示を明確にすることにより、子どもの思考を促すことができた。
- ・ノートやホワイトボードを活用し、「書く活動」を位置づけることにより、言葉や図、を用いて、自分の考えを表現したり説明したりすることに自信がもてるようになってきた。
- ・発達段階に応じた学習リーダーの役割を明確にし、児童一人一人に相手意識を育て、全員にその進行を理解させることによって、主体的に学習に取り組む姿勢を育てることができた。
- ・意図的な同時間接指導により、どちらの学年も落ち着いて課題に向かうことができた。また、授業者も全体の様子を把握しつつ、確実に個別の手立てを講じることができた。

### 課題7《学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実》

- ・問題提示・課題設定にあたっては、前時までの学習との相違点を明確にすることで、解決の見通しをもちやすくすることができた。

- ・話し合いの観点を明確にすることにより、互いの考えについて具体的なとらえができるようになり、相手の考えを踏まえて発言し、学びを深めることができるようになってきた。
- ・各学級が掲示物・板書に学習過程を掲示することにより、学習の進み方と見通しをつかませることができた。
- ・間接指導時に、思考を助けるための手立てとなるノート・ツボカード(要点をまとめたカード)・iPad・ヒントカード等を活用することにより、つまづいた時にも主体的、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ・授業における基礎的事項の確認や、家庭学習等と連動させた繰り返し学習を位置づけたことにより、子ども自身が基礎的な内容の定着を実感し、学ぶ喜びを積み重ねることができた。

### 課題8 <地域に根ざした学習内容の改善・充実>

- ・同一町における小規模校同士の交流学習では、団体種目によるボール運動やゲーム等を通して、集団で活動することの楽しさを経験させるとともに協調性を育むことができた。また、合同修学旅行や中学校入学時における人間関係の土台を築くことができた。

### 課題 学校・学級経営 の深化・充実

- ・北海道教育の喫緊の課題である「確かな学力の向上」を学校経営や研修の重点に置く学校が増えている。しかし「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成には、第8次長計の第2分野だけではなく、両分野を一元的に取り組み、相互の深化・充実を図ることが重要である。
- ・小規模・複式校の統合や単式校の複式化、複式未経験教師の存在といった現状を踏まえ、教職員の指導力向上に向けた校内研修を充実させるとともに、近隣校との交流や教育研究団体との連携を図った共同研究を一層推進していかなければならない。
- ・児童に「豊かな心」を育むためには、地域に存在する「人・もの・自然」等の教育素材や地域の教育力を意図的・積極的に教育課程に導入し、体験を通して道徳的实践力を高める教育活動を充実させることが重要である。
- ・開かれた学校づくりとして、日頃から地域や保護者の方が気軽に来校し授業を参観したり評価したりしていただく等、理解と協力を得る体制を整えなければならない。
- ・地域に根ざした教育活動を持続可能な学習とするためには、長期的な展望を持たなければならない。また、地域から学んだことをどう評価し、今後の活動につなげていくかも含めて検討していかなければならない。
- ・地域の方の思いと学校の教育活動としてのねらいは必ずしも同一とはならない。活動のねらいを明確にし、計画段階での共通理解が重要である。

### 学習指導 の深化・充実

- ・前時までに経験した思考活動や操作活動を生かすことができるならば、子どもは課題意識をもち意欲的に学習に取り組むことができる。そこで、連続した学びを実感できる指導計画の立案と課題設定について研究を深めていかなければならない。
- ・解決の見通しをもたせることは非常に有効であるため、既習学習との関連を図ることが重要となる。しかし、その段階で見通しをどのくらい、どのようにもたせるかについては今後検討していく必要がある。
- ・教師が話し合いの観点を明確にもち、方向性を具体的に示すことが児童間の主体的な学びにつながることを強く意識し、小集団での交流の場を含め、伝え合い学び合うコミュニケーション能力の育成を図ることが重要である。
- ・基礎学力の定着を図る習得型の学習とともに、学んだ知識や技能を日常生活と結びつけて活用を図る応用型の学習について研究を深め、指導方法の改善・充実に取り組む必要がある。
- ・教師がねらいを達成させるためには、授業の最終的なイメージをもつことが大切である。そのためには、指導の重点を明確にし、直接指導と間接指導の時間配分を考慮した四段階指導過程の工夫を図ることが重要である。
- ・学習形態の工夫だけでは学び合いは深まらない。発問・指示、教材教具との効果的な組み合わせや、学習のきまり、認め合い高め合うといった学級の基盤があって、はじめて充実した学習活動となる。